

これくしょん・ぎやらりに

2009年2月4日(水) ▶ 4月12日(日)

パスキン展 Jules Pascin

ブルガリアのヴィディンで裕福なユダヤ人の家に生まれたジュール・パスキン—本名ユリウス・モルデカイ・ピンカス(1885~1930)は、エコール・ド・パリの画家の一人です。10代から素描家として早熟な才能を発揮したパスキンは、19歳のときにミュンヘンの著名な諷刺雑誌と挿絵画家として契約し、1905年に芸術の都パリへやってきます。第一次世界大戦中は、アメリカに滞在し、1920年にパリへ戻りました。パスキンは、夜ごと友人たちとお祭

りさわぎを繰りひろげながら、多くの作品を描いていきます。やがて真珠母色に輝くような独自の女性像で画家としての評価を確立しますが、1930年、自らの命をたちました。

パスキンは、生涯に多くの作品を残しており、当館には、220点以上のまとまった作品が所蔵されています。今回の展覧会では、そのコレクションから油彩・水彩・版画など幅広い作品によって画家パスキンの魅力をご紹介します。

パリへ

ウィーン、ミュンヘンで美術を学んだパスキンは、早熟な才能を示し、19歳のときにミュンヘンの諷刺雑誌『ジンプリツィシムス』と高額な契約を結びます。1905年には、パリへ向かい、ドイツでの友人達に迎えられました。パスキンは、さまざまな国の芸

術家が出入りするモンパルナスのカフェ「ル・ドーム」に頻繁に通い、パリの街と人々から刺激を受けます。何度かアトリエをかえ、モンマルトルとモンパルナスを行き来しながら、パスキンは、パリに暮らす人々の姿を描きました。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
1	ジュール・パスキン	婦人と犬と子ども	1902頃	インク、水彩・紙
2	ジュール・パスキン	祭	1903	インク、水彩・紙
3	ジュール・パスキン	家族 I	1903	鉛筆、水彩・紙
4	ジュール・パスキン	客と3人の娘たち	1904	水彩・紙
5	ジュール・パスキン	ジブシー	1906	ドライポイント・紙
6	ジュール・パスキン	女たち	1906頃	鉛筆、ペン・紙
7	ジュール・パスキン	道	1907	ドライポイント・紙
8	ジュール・パスキン	女学生	1908	油彩・キャンバス
9	ジュール・パスキン	荒野の騎手	1909	油彩・ペーパーボード
10	ジュール・パスキン	犬の愛嬌	1909	ペン、水彩・紙
11	ジュール・パスキン	人形	1910	油彩・カルトン(キャンバスに貼付)
12	ジュール・パスキン	三美神の舞台	1910	ペン、水彩・紙
13	ジュール・パスキン	パリの貧民区	1910	水彩・紙
14	ジュール・パスキン	貧民区にて	1910	木版・紙
15	ジュール・パスキン	遣手女	1911	グワッシュ・ペーパーボード
16	ジュール・パスキン	ソファに腰かけるシュザンヌ	1911	油彩・キャンバス
17	ジュール・パスキン	黒いスカートのエルミーヌ	1911	鉛筆、水彩・紙
18	ジュール・パスキン	木陰にて	1912	パステル、クレヨン・紙
19	ジュール・パスキン	ファンタジー	1912	ドライポイント・紙
20	ジュール・パスキン	魚売りの女たち	1912	木口木版・紙
21	ジュール・パスキン	夏の宵	1912	ドライポイント・紙
22	ジュール・パスキン	モンマルトルのバー	1912	ドライポイント・紙
23	ジュール・パスキン	カフェにて	1913	ドライポイント、色鉛筆・紙
24	ジュール・パスキン	四人の女	1914	鉛筆、水彩・紙

パスキンの友人達

パスキンが暮らした時代、パリは、芸術家にとって憧れの地であり、ヨーロッパ各国、さらには日本からも画家を夢見る多くの若者が集まっていました。パスキンはこの街で小説家や詩人、評論家などさまざまな人々と出会い、同じように異国からやってき

たキスリングやスーチン、藤田嗣治らと友人になりました。妻となるエルミーヌ、生涯の恋人となる女性リュシーと出会ったのもパリでした。アメリカ滞在中に知り合った国吉康雄も、パスキンの勧めで1920年代にパリを訪れています。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
25	ジュール・パスキン	肘掛け椅子のエルミーヌ	1914	鉛筆、水彩・紙
26	ジュール・パスキン	エルミーヌ・ダヴィッド	1918	コンテ・紙
27	ジュール・パスキン	国吉夫人	1927	鉛筆・紙
28	エルミーヌ・ダヴィッド	自画像-17歳	1904	水彩・紙
29	エルミーヌ・ダヴィッド	森の散歩道	1922頃	油彩・キャンバス
30	ハイム・スーチン	祈る男	1921頃	油彩・キャンバス
31	パール・クローグ	ローブをまとったテレーズ	1925	油彩・キャンバス
32	モイズ・キスリング	晴着の婦人	1925	油彩・キャンバス
33	国吉康雄	横たわる裸婦	1929	油彩・キャンバス
34	藤田嗣治	フランス娘	1945頃	木版・紙

アメリカ時代

1914年、第一次世界大戦が始まるとパスキンはアメリカへ渡りました。ニューヨークにアトリエを借り、前衛的芸術家集団「ペンギン・クラブ」に入り交友を深めます。アメリカでは、キュビスム風やフォーヴィスム風などの表現も試みています。カフェや

ダンスホール、裏通りの娼婦など、下町で暮らす人々の日常を愛し、そうした姿をよく描きました。ニューヨークの寒く厳しい冬には、キューバやニューオーリンズなど暖かい地方に滞在することもよくありました。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
35	ジュール・パスキン	裸婦の構図	1915	油彩・キャンバス
36	ジュール・パスキン	移民	1915-20頃	リトグラフ・紙
37	ジュール・パスキン	市場	1915-16	鉛筆、ペン・紙
38	ジュール・パスキン	ニューヨーク風景（バトリー・パーク）	1916	エッチング・紙
39	ジュール・パスキン	南にて	1916	エッチング・紙
40	ジュール・パスキン	旅する家族	1916	ドライポイント・紙
41	ジュール・パスキン	キュビスト風の女性像	1916	水彩・紙
42	ジュール・パスキン	キューバの外輪船	1917	鉛筆、水彩・紙
43	ジュール・パスキン	ハバナの港	1917	鉛筆、水彩・紙
44	ジュール・パスキン	キューバ風景Ⅰ	1917	鉛筆、水彩・紙
45	ジュール・パスキン	キューバ風景Ⅱ	1917	鉛筆、水彩・紙
46	ジュール・パスキン	家族Ⅱ	1917	墨、色鉛筆・紙
47	ジュール・パスキン	キューバにて	1917頃	鉛筆、水彩・紙
48	ジュール・パスキン	キューバの人達	1917	油彩・キャンバス
49	ジュール・パスキン	良きサマリア人	1917	油彩・キャンバス
50	ジュール・パスキン	みづくろいする女	1917	油彩・キャンバス
51	ジュール・パスキン	カフェの庭で	1917	油彩・キャンバス
52	ジュール・パスキン	渡船の労働者	1918	水彩、インク・紙
53	ジュール・パスキン	公園にて	1918	コンテ、水彩・紙
54	ジュール・パスキン	習作Ⅰ	1919	ペン、インク、水彩・紙

再びパリへ

1920年、パスキンはなつかしいパリに戻り、人気画家としての地位を確立していきます。パリでは夜ごと友人達と街へ繰り出しては何軒も酒場をまわり、週末にはアトリエで「パスキンの饗宴」を催しました。画家や評論家、さまざまな人々が集まり、アンド

レ・サルモンやピエール・マッコランらがその常連でした。パリへ戻ってからの10年間、パスキンは多作でした。モデルの女性や身近な友人達、旅先で出会った人々を題材に、油彩・水彩・版画など多様な作品を制作し、本の挿絵なども手がけています。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質
55	ジュール・パスキン	女の背中	1920	ブロンズ
56	ジュール・パスキン	アンドレ・サルモンとモンマルトル	1921	油彩・紙
57	ジュール・パスキン	放蕩息子	1922	油彩・キャンバス
58	ジュール・パスキン	ユディトとホロフェルネス	1922	ドライポイント・紙
59	ジュール・パスキン	夜とざす（5点組のうち3点）	1923	エッチング、水彩・紙
60	ジュール・パスキン	エウロペの略奪	1923	ドライポイント、アクアチント・紙
61	ジュール・パスキン	二人のモデル	1924	油彩・キャンバス
62	ジュール・パスキン	マッコラン	1924	水彩・紙
63	ジュール・パスキン	肘掛け椅子のモデル	1925	油彩・キャンバス
64	ジュール・パスキン	花束をもつ少女	1925-26	油彩・キャンバス
65	ジュール・パスキン	ゲオルク・アイゼンマン I	1926	パステル、コンテ、木版・紙
66	ジュール・パスキン	サロメの踊り	1927	ドライポイント・紙
67	ジュール・パスキン	再び放蕩息子	1927	ソフトグランドエッチング・紙
68	ジュール・パスキン	サロメ、サロメ	1927	エッチング、シャンルベ・紙
69	ジュール・パスキン	白いリボンの少女	1928	油彩・キャンバス
70	ジュール・パスキン	腰かける女	1928	油彩・キャンバス
71	ジュール・パスキン	ジナとルネ	1928	油彩・キャンバス
72	ジュール・パスキン	パスキン氏をいたぶる意地悪な人々	1929	鉛筆・紙
73	ジュール・パスキン	シンデレラ（5点組のうち3点）	1930	エッチング・紙
74	ジュール・パスキン	恋人たち	1930	油彩・板
75	ジュール・パスキン	ヘロデ王の前で踊るサロメ	1930	ソフトグランドエッチング、アクアチント・紙
76	ジュール・パスキン	三人の裸婦	1930	油彩・キャンバス
77	ジュール・パスキン	作品集『夏：スケッチブック』	1920刊	書籍
78	ジュール・パスキン	ポール・モラン著『夜とざす』	1923刊	書籍
79	ジュール・パスキン	シャルル・ペロー著『シンデレラ』	1930刊	書籍
80	ジュール・パスキン	ピエール・マッコラン著『パスキンの墓』	1944刊	書籍